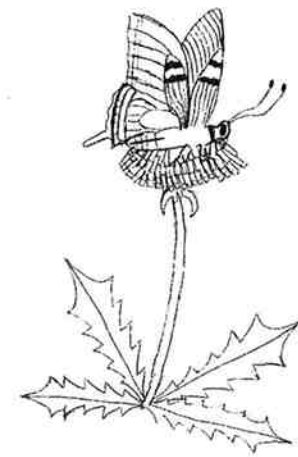


ふれあい雪谷

平成22年

さくら号

通巻第78号



小池小学校4年 渡会 裕己君の作品

ふれあい雪谷編集委員の近野益美さんが先月ご逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

【編集後記】

ハツとする沈丁花の香り、漸く春めいてきましたね。この季節、洗足池から石川台にかけて、池上線の手窓に広がる土手の姿は見事です。産声をあげてまもない小池公園、園庭で遊ぶ元気な子供達、池の生き物たちも出番です。わが街のみんな大切ないのちです。潤いある地域の一助となりますよう、編集への助言、要望、投稿を是非お寄せ下さい。お待ちしております。

(池の台 柏 三八子)

【発行】地域力推進雪谷地区委員会
【編集】ふれあい雪谷編集委員会

連絡先 雪谷特別出張所
大田区東雪谷三六二
電話 三七二九一五一一七
【発行日】平成二十二年四月一日
通巻第七十八号

ホームページ

http://koho/nishi/nishi_news/yukigaya/index.html



母校の思い出 38

大森第六中学校

忘れ得ぬ熱血・入魂授業

戦後間もない昭和24年の1年2学期。岡山県・中国山脈のど真ん中から転入。特に英語。A、B、Cが書いて、やっとなさ。I am a boy.なんて覚えただけなのに六中では“ハイ、b動詞プラス、動詞の原形アイ、エヌ、ジーは進行形”パチンと手打って“ハイ、もう一度”つときたもんです。えっ？ b動詞って？ 動詞の原形って？ ingって？ “こりやおえん(方言・だめだ)、全然判らん！” “そうです、それはそれは怖わーいヒス森山(とよ)先生の忘れ得ぬ英語の熱血授業です。

それから、消防自動車&満員電車っていうあだ名の先生。そ、そう社会・歴史の野村裕先生の入魂授業です。ちりんちりんとは業のカネが、と、もう現場(教壇)に。速ーい！ だから「消防自動車！」。黒板を敵と見てか書くは書くは、隙間なくぎっしりお書きに。だから「満員電車！」ってわけ。とても写せたもんじゃない…。今なお鮮明です。しかし、あだ名の付け方って、いや絶妙ですね。



ここで六中の第3回同窓会のお知らせを申し上げます。

- ・期日 平成22年5月16日(日) 午後1時開会。
- ・会場 区立大森第六中学校体育館(懇親会:軽食用意)
- ・参加費 3,000円。18歳以下無料。
- ・お問い合わせ(順不同、敬称略)
 - :大岡山駅前相川畳店・相川英昭 ☎(3717)4455
 - :長原商店街三津屋酒店・土屋光一 ☎(3729)2289
 - :北千束駅前桜井米店・櫻井 汎 ☎(3729)6423
 - :洗足駅前タバコ店・網島紀文 ☎(3729)5575
 - :長原駅前だるま堂文具店・竹井 節 ☎(3729)3777
 - :千東西自治会・宮内英始 ☎(3720)1546

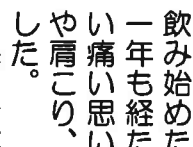
皆さまお誘い合わせのうえ、こぞってのご参加を！！

(小池 沼本 光史)

私の健康法 37

虚弱体質の改善

私は極度の虚弱体質で、血行が悪いか冷え性で、夏でも靴下を履かないと寝られない日が続きます。そのうえ肩こり等があり、年中身体のおちこちが痛く、毎日憂うつな辛い思いを過ごしてきました。



ことです。そんな折、「手術後の回復も早いし、身体にいいわよ」と「水溶性核酸(DNA)」を友人から勧められ飲み始めたのです。飲み始めて一年も経たない内に、何年も辛く、毎日憂うつな辛い思いを過ごしていた、花粉症もなくなりま

した。毎日仕事をして疲れ知らずの、若さと健康を取り戻すことができました。

医学会の分野で核酸(DNA)の研究が進められていることは誠に喜ばしいことと思います。

その頃、医師から胆のうガンと診断され、胆のう摘出手術を受けました。今から七年前の

サークル紹介 47

俳句(さんご樹の会)

友人達に「俳句部に入らない？」「いや難しくて」「でも私には」と敬遠されま

す。けれどもやってみればどなたにも出来る面白い学習、自然を友に豊かな人生が送れるでしょう。

老人クラブの一環として続いている俳句部は三十余年の歴史のある「さんご樹の会」これは当初二十名程の高齢の先輩諸姉が研鑽をつまれ、立派な足跡を残され、親睦をはかり現在に至っております。しかし既に殆どの方が故人となられ、また転居され、今私共十名足らずの少人数で何とか維持、大先輩の実績の灯を

消してはならぬと頑張っております。殆どが初心者で五七五と指を折りながら、よちよち歩きの有様ですが、優しく熱心な講師の先生の下で、月一回来しく和やかに脳の活性化のためにレッスンに励んでおります。作品は毎年開催される区老人文芸展に出します。「ふれあい雪谷」も時折愚作ですが掲載も。

一度気軽に見学にいらっしやいませんか。入会大歓迎です。

※日時 毎月第三木曜

※会場 仲池上いこいの家



(上池上 服部)

(小池 櫻井 八重子)

「自治会加入促進PRちらし」のご活用を！ “みなさん、自治会活動にご参加ください”

一人でも多くの方と“暮らし良い”まちづくりを！
一人でも多くの方と“いざという時”に備えたい！
一人でも多くの方と“地域ニーズ”で交流したい！
一人でも多くの方と“行政に声を”届けたい！

このたび、こんな目的から手作りしたチラシが「お目見え」することになりました。とにかくお一人でも一世帯でも多くの方々に自治会へのご加入を…との熱願からです。

これは「平成21年度東京都地域の底力再生事業助成」の対象事業として企画されています。

☆ ☆ ☆

それぞれの地域で、さまざまな課題がたくさんありますが、「健全な地域力」があってこそ、「わが家の安心、安全」があると思います。地域にあって「うちは皆さんのお世話にはなりません」という「一軒だけの安穩主義」なんて、もうナンセンス。孤立とエゴの時代は終わっているのです。

みなさん、新地域主義ともいうべき自治会活動に、一緒に「参加」しようではありませんか！もちろん、自治会はその司令塔&核となって住民をリードし、魅力ある活動と楽しい素材を提供する責任があります。その自治会の使命を“人任せではなくって”お住まいの「みんなが参加して、みんなが責任者となって」我が街をつくろう！という訴えなのです。これがPRチラシの心です。

若いご夫妻大歓迎、他地域からご転入の皆様、マンションにお住まいの方々、一人暮らしの方、こぞってのご加入をお待ちいたしております。チラシにある各自治会&雪谷特別出張所にこそ一報くださいませ。

☆ ☆ ☆

1面は「みなさん、自治会へどうぞ！！」との見出しで自治会の地域別地図を。そして「雪谷地区には9つの自治会があります。あなたはどこの自治会でしょう？」との呼びかけが。

2・3面の見開きは「自治会アピール いま『地域』が面白い！」。カット写真入りで9自治会別のユニークなアピールが。4面は自治会のめざすものとして3つの視点からの訴えが。最後は松原区長のメッセージで締めくくってあります。

制作にあたり内山連合会長、川上出張所長、職員の水川・阿由葉さん、(株)気生堂印刷の関口さんの各位には特別なご協力いただきました。心から感謝申し上げます。

(雪谷地区自治会連合会加入促進PRチラシ編集委員会)

神輿新調記録帳から南雪谷の町、自治会の昔を知る (自治会紹介)

57年前に記録された神輿新調記録帳が、会館倉庫から発見され、南雪谷町の生い立ちと、往時の自治会を知ることができましたのでこれを紹介したいと思います。

「雪ヶ谷町南地区の歴史を顧みるに古来廣漠たる武蔵野の一角清流多摩川に近く、名嶽富士を眺る丘陵、寂涼々と点在する村落の内、僅か8戸の農家による池上村大字日下山の小村落より発する…」その後政令の改廃等に対応して逐次、雪ヶ谷町南部町会、都南文化協会、日赤奉仕団雪ヶ谷南分団、雪ヶ谷町南自治会が設立され、その間昭和3年の池上線全通を契機として雪ヶ谷町は躍進的に増加の一途を辿り、昭和29年には1600有余の世帯数を有する大田区内随一の自治体となりました。

終戦後、天皇の人間宣言、家族制度の改革等により「思想の混乱、道義の退廃、個人主義の横溢、民主主義の行過ぎ等により敬神の念は薄らぎ、家長に対する儀礼等閑になる等世相の悪化する情勢を常に苦苦しく慨歎する町内の有志は相寄り相謀り、国民精神の再興の一助として」一日町内高齢者を招いて敬老会を催して長老に対する尊敬の念を顕し、又予て念願の「神輿を新調して町の象徴とし以て敬神の振興を企画すべく、昭和26年7月祭礼委員会の議案として、全員一致の協賛により(中略)神輿大小二社、太鼓一台、格納庫一棟の建設に邁進することとなり…」

以上記録帳から抜粋した文面です。敗戦直後の混乱期の自治会の指針に対する苦慮が窺えます。表現、施策は異なりますが、町の為、住民の仕合せを願っての活動は、安心、安全、住みよい町づくりを求めている昨今の自治会活動と何等遜色ないと感じいった次第です。これからも力をあわせて住みよい町雪ヶ谷を作って参りましょう。

(南雪谷 内山 弘)



美しい環境づくり 33

朝、5時頃から、犬の散歩に出かけると、ジョギングの人や、御夫婦で歩かれて、いつも同じ方々なので、自然に御挨拶をする様になり、犬仲間で色々なお話をするように楽しく散歩をしています。

毎週水曜日には、どちらの方々かわかりませんが、5時半から6時頃迄の間に、石川台駅の付近のお掃除をしています。片や、煙草のポイ捨てや、犬の糞をそのままにして行ってしまう人もいますので、本当に残念です。

一人一人がもっと気を付ければ、美しい町になるのではないのでしょうか。

(希望ヶ丘 K.T)



小池公園にて

住居表示の仕事で区内を走り回っていた時期があった。慣れない自転車のペダルは軽快さからは程遠く、雪谷の起伏の多い地域では辛いものがあった。

そんな日、ふと立ち止まった先にのんびりと釣り糸を垂れる人たちが見えた。けだるい午後の陽を帯びて、彼らは一枚の静止画のようだった。眠たげに頭を垂れる仕種まで見えるようだった。あれから時は移り、小池は様相を変え、むき出しの水面をさらし、まるで生まれだての赤ん坊のように震えている。若木の葉が湖面に迫り出すまでにはまだ時間がかかりそうで、夏は日差しを遮るものがなく、肩をすくめる真冬の本枯らしも当分続くだろう。それでも、小池が住民の憩いの場であろうとするならば、かわせみが巣立ち、めだかが泳ぎ、もしかしたらホタルの飛び交う夏の宵に会えるかもしれない。そして、何よりも果敢にはしゃぎ回る子供たちの歓声を聞くことができるだろう。

人影の絶えた午後、小池の回りをそんなことを考えながらゆっくり歩いてみる。

(雪谷特別出張所 船越 英子)